

丹沢 西沢・本棚沢

2005年11月6日 曇り後雨 L松田(記録) 三井 吉田

動けない!! 落ち口まであと2~3mなのに・・・

左足は親指がようやくかかるほどの微妙に外傾したスタンスで、手がかりはほとんどない。右足を上げられるか?、落ちるか?、なかなか踏ん切れず5分くらい粘っていたような気がするが、これ以上長びけば確実に落ちるだろう。どのみち戻ることはできないし、山羊の毛のフリクションを信じて行くしかない。ぎりぎりのバランスで右足を次のスタンスに上げて、やや甘い小さなホールドに手が掛け、息を詰めるようにさらに左足を上に載せた時、一瞬左足が滑ったが何とか右足で保ち、あとは夢中で上に抜けた。終わった!! 平らな地面を踏みしめた時に、思わず何かに感謝したい気持ちになった。

朝吉田宅に寄ってから、丹沢自然教室で三井さんと合流し、本棚下に着いたのは10時過ぎ。三井さんは既に登ったことがあるが、私と吉田さんは初めてである。下から見ると相変わらずの迫力で果たして登れるのかなと思ってしまう。最近の記録を読むと3ピッチめは特に悪そうだが下からは分からない。

10時30分 登攀開始。1ピッチめは易しいと書いてあったが、岩が脆そうでいまいち手がかり、足がかりが信用できず、時間をかけて慎重に登る。所々水が流れていて不快調だ。30mくらい登ると3人くらい立てるテラスがあり、そこでピッチを切る。2ピッチめはラストの吉田さんがそのままシングル・ツルベで登り、草っぽいつるつるの凹角をA0で越えて15mくらい上でピッチを切る。行ってみると凹角上部は手がかりが何もなくて、ほとんど残置シュリングにぶら下って登るような感じだった。3ピッチめは出だしはホールドスタンス豊富で容易だが、岩が脆く特にガバ系は怖い。1段上がって水から逃げるように右に回り込み、残置にランニングを取りながら、落ち口直下3mほどに到達する。前述したようにこの先は本棚の核心部で、傾斜はないが相当悪い。3人が登り終わったのは13時15分。全体的に岩が脆くて怖い滝だ。私と三井さんはどっちでも良かったが、吉田さんが上部も登りたいと言うので本棚沢を詰める。その上に3,4つ滝が出てくるが登りにくそうなのばかりで、もう滝はいい、という感じもあったので全部巻く。しばらく行くと二俣になるが、雨が降り出したので右に入って稜線を目指す。稜線のベンチで登攀具をしまい、夏道を下って丹沢自然教室に戻ると、レンジャーの方がフロッピーをくれた。登攀中に下からデジカメで撮った画像が入っているそうで見るのが楽しみだ。お礼を言ってから、温泉経由で帰宅する。

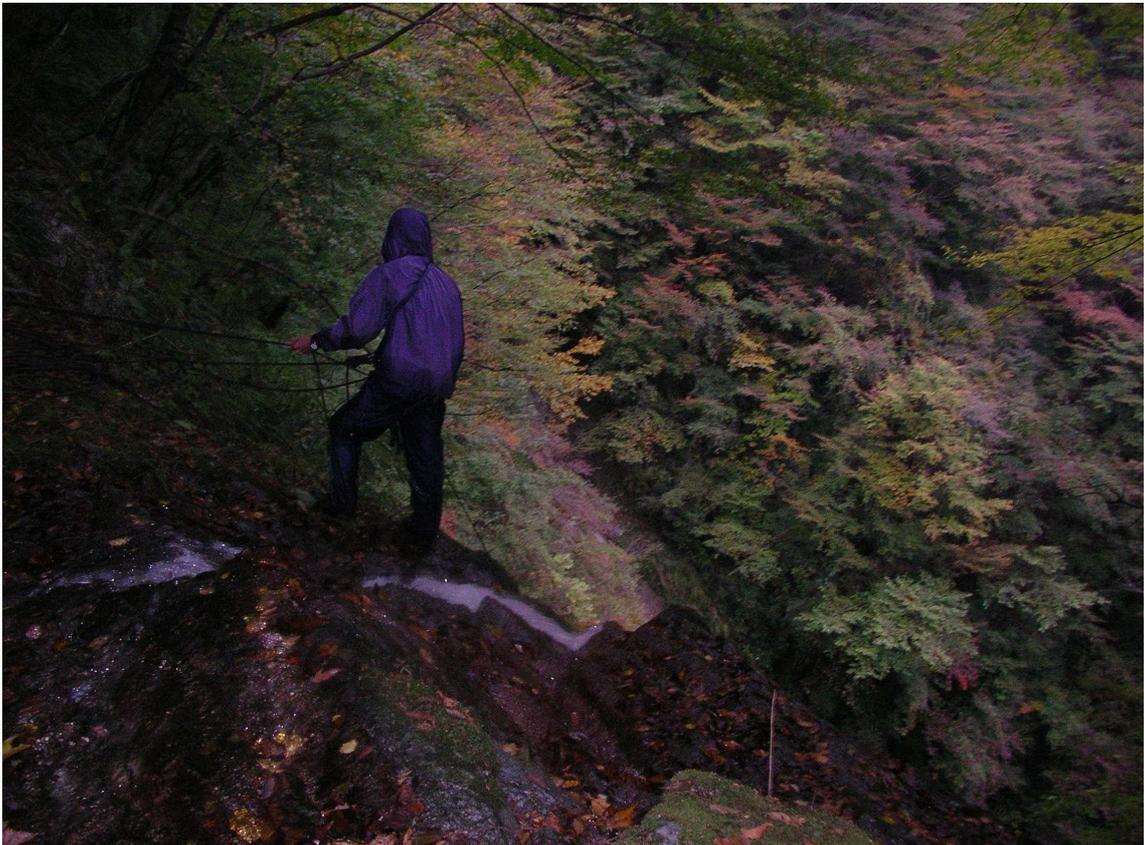
登攀開始(10:30) - 登攀終了(13:15) - 稜線(14:20)



F 1 下



1 ピッチ目をリードする松田



F 1 上で確保する松田